出石城下町の町並み

城下町の町並み

出石城下町の町並みの特性は、明治９年の大火以降、概ね昭和30年代初期までに建てられた伝統的建造物や、それらと一体をなして歴史的風致を形成している環境要素がつくり出しています。
伝統的建造物のうち、建築物には町屋敷地を構成した町家建築の主屋及び土蔵、伝統的な寺社建築等があり、工作物には塀、石垣等があります。
なかでも、辰鼓楼、武家屋敷、神社、寺院、酒蔵、近代洋風建築である旧郡役所建物（明治館）や旧出石郵便局、産業遺産の織物工場など多様な建造物もよく保存されていて、歴史的景観をより豊かなものにしています。また、城下町を取り囲む豊かな山々や河川などの自然景観も昔のままに残されています。
多くの歴史的町並みが周辺から切り離されて残っていくのに対し、出石では周辺景観を保持し、自然豊かな景観の中に人工的に配置された往時の都市構造がそのまま残されています。

材木 ざいもく

城下町形成時に材木屋が集まっていたことが由来です。近世には藩の御勘定所「義倉（ぎそう）役所」や藩校「弘道館」がありました。
近代以降、旅館や店舗もありましたが、現在は住まいを中心とする町並みです。赤土の壁を持つ、間口の狭い町家が連なり、風情ある景観がつくられています。

魚屋 うおや

城下町形成時に魚屋が集まっていたことが由来です。近世には「吹田屋」「門垣屋（もんがきや）」「和泉屋」など大商人が多く居住していました。
まちのランドマークとなる酒蔵があり、美しい格子を持つ町家も多く、寺や背後の山々が通りのアイストップとなる印象的な町並みです。

内町 うちまち

城の中だったことが由来です。城内三の丸とも呼ばれ、藩政の中枢部であると同時に藩主や家老など最上級藩士の居住区でした。
現在でも、出石支所や観光センター、家老屋敷、伊藤清永美術館などが位置する出石の中枢部となっています。

八木 やぎ

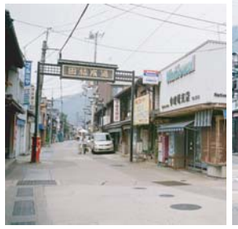
守護大名山名氏四天王の一人「八木氏」の居館があったことが由来です。裏側（大手筋より東、南側）には内堀が囲っています。
現在は、土産物店をはじめ、多くの商店が通りに並び、活気ある賑やかな町並みが形成されています。

本町 ほんまち

城下の中心町であったことが由来です。大手筋の四辻には高札場が設けられていたので「札の辻」と呼ばれていました。
現在は店舗と住まいが混在する町並みとなっています。

宵田 よいだ

守護大名山名氏四天王の一人「気多（けた）郡宵田城主垣谷氏」の居館があったことが由来です。近世には料理屋や仕出屋が多く立地していました。
近代以降も仕出屋等があり、賑わいがありましたが、現在は住まいを中心とする、落ち着いた景観がつくられています。

田結庄 たいのしょう

守護大名山名氏四天王の一人「田結庄氏」の居館があったことが由来です。産物会所が置かれ、生糸等の売買がされていました。
多様な商店が集まる消費の中心地で、間口の大きい敷地や、二階が塗込められ卯建を備える大型の町家も複数棟立地します。